



令和元年 8 月 7 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 s M e d i o
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岩 本 定 則
(コード番号：3913 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 北 埜 弘 剛
(TEL. 03-6262-8660)

令和元年 12 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成 31 年 2 月 13 日に公表しました令和元年 12 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 令和元年 12 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と実績との差異

(単位：百万円)

	連結 売上高	連結 営業利益	連結 経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期 純利益
前回発表予想 (A)	507	△66	△67	△72	△37 円 81 銭
実績値 (B)	437	△69	△68	△70	△37 円 56 銭
増減額 (B)-(A)	△69	△ 2	△ 1	1	—
増減率 (%)	△13.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 12 月期 第 2 四半期)	534	29	29	12	6 円 42 銭

2. 差異の理由

(連結売上高)

当社の連結売上高は、ロイヤリティ収入が 7 割弱、開発収入が 3 割弱、残りが保守・サポート収入で構成されています。このうち、ロイヤリティ収入と開発収入が計画を下回ったことで、連結売上高は、計画を 69 百万円下回りました。

◆開発収入

当第 2 四半期連結累計期間に納品した開発案件には、今後の当社のロイヤリティ収入の下支

えを期待できる案件が含まれており、その開発・納品に難航したため、内部開発人員の振り向けや積極的な外注の活用により、他の開発案件に開発リソースの面で影響が出ました。

上述のような開発環境であったことなども影響し、計画で見込んでいた新規開発案件の失注（約 20 百万円）や、納品が第 3 四半期にずれ込んだ案件（約 13 百万円）があったこと等により、開発収入は計画より約 45 百万円下回りました。

◆ロイヤリティ収入

当社のソフトウェア搭載の PC 等の出荷台数が想定を下回ったことで、ロイヤリティ収入が計画より約 25 百万円下回りました。

（連結営業利益・連結経常利益）

売上総利益は、連結売上高の下振れの影響が大きく、計画を約 26 百万円下回る水準となりました。

①開発人員の新規採用が、一部、第 3 四半期にずれ込んだことなどによる人件費の増加幅縮小や②節減に努めた旅費交通費などの経費が計画を下回った結果、販管費が 23 百万円計画を下回ったことで、連結営業利益および連結経常利益は、計画をそれぞれ 2 百万円、1 百万円下回る水準となりました。

（親会社株主に帰属する四半期純利益）

税金費用が計画を下回ったことで、親会社株主に帰属する四半期純損益は、計画より約 1 百万円上回り、70 百万円の赤字となりました。

以 上